

情報連絡員報告総括表(令和6年3月期)
富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	パン製造業	→	→	→	→	↘	↘	→	→	↘	・原材料価格の値上がりが止まらない。 ・毎月値上がりしているため、商品の値上げのタイミングに苦慮している。 ・企業の活動が弱く、残業食がなかなか増加しない。
	豆腐製造業	↘	→	↗	→	→	→	→	→	→	・売上は、前年同月比83.5%と減少している。
繊維工業	ニット製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	↘	・衣料関連の景況が悪化し、流通在庫過多となっている。
	絹人織織物製造業	→	↗	→	→	↘	↘	→	↘	↘	・化合繊維物並びに絹織物の状況は前月と変わっていない。 ・原材料や資材価格の高値が続いている。 ・賃金の上昇による諸経費の増加により、売上維持が困難なため、収益が悪化している。
	綿・スフ織物業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・各種コストの上昇により収益は悪化し、非常に厳しい状況である。
木材・木製品	一般製材業	↘	→	→	↘	↘	→	↘	→	↘	・県内の新設住宅着工戸数は、前年同月比15.7%減で3ヵ月連続の大幅な減少が続いている。 ・ロシア材について、需要の回復は見込めず、客足の悪い状態が続いている。 ・県内木材関係事業者は、厳しい経営状況が続いており、取引条件、収益状況が悪化している。 ・能登半島地震により、県内製材工場に復興仮設住宅関連資材の調達依頼などがあり、引き続き、復旧復興に対応していく。 ・地震による木材事業者の復旧復興に対する多額の義援金・見舞金が全国から当会にあり、その趣旨に沿って役員会で配分額等を決定の上、被災した会員木材事業者の復旧に係る支援経費などとして活用していく。
	その他の木製品製造業	↘	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。

印	刷印 刷 業	→	→	↗	→	→	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・他業界とのM&Aで組織再編をし、他業界企業の傘下に入った組合員がある。県内企業同士の動きのため、相乗効果を期待しているが、他県の同業並びに異業種とのM&Aは、限られた市場で競争効果を招くため、今後注視が必要である。
化 学 ・ ゴ ム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・原料価格の高騰が続いており、収益を圧迫している。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・3月の県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比で30.8%の減少となっている。 ・令和5年度の年間出荷数量は、前年度比で14.4%減となり、組合の需要想定量に比べて約10%の減少となっている。 ・富山県内全ての地区の出荷数量が前年同月比で減少となっている。
	コンクリート製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業は、人材の採用が厳しい状況である。
	骨材・石工品等製造業	↗	→	↗	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度骨材受注納入契約について、3年連続の値上げとなり、得意先から苦情が多く聞かれたが、丁寧に説明を行い契約に至っている。 ・骨材需要は、堅調な状況で推移している。 ・能登半島地震により、能登方面へ碎石の運搬を組合員で行っており、今後も災害復旧応援等が続く見込みである。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・生産量について、建設機械、工作機械及び産業機械関連など、全般的に減少傾向である。 ・当面は厳しい状況が続くと考えられる。
	銅・同合金鑄物製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・地金価格が高騰している。
	アルミニウム製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	→	→	↘	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・鉄工業製造部門は、前年同月に比べて生産実態が好転している。 ・ハローワークや工業高校に求人を出しても、福利厚生面等から希望者が来ない実態があり、採用動画の作成等、採用活動を強化したところ、新規採用者が18名と成果が見られている。
	めっき加工業	↘	→	→	→	→	→	↘	↘	↘	・例年3月は取引先からの駆け込み需要があるが今年あまりなく、売上高は減少している。 ・経費は抑えられており、収益状況は変わっていない。 ・中途退社が時々あり、人員は若干不足している。
一般機器	金属工作機械製造業	↘	↗	→	↘	↘	→	↘	→	↘	・受注状況について、前月比では各部門増加しているが、前年同月比は84.89%となり、まだまだ回復していない。 ・売上の前年同月比は減少しているものの、回復しつつある。しかし、端境期を迎え、来月以降は厳しい状況が続く見通しである。
	金属加工機械製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	非金属用金型製造業	↘	→	↘	→	↘	→	↘	→	↘	・新規案件の動きが見られる時期ではあるが、気配は薄く、予定計画の声も聞こえていない。 ・今後、GWによる販社の休みや物流の2024年問題によって、材料入手の絡みから、5月中旬頃まで生産の低迷が続くと思われる。 ・業況は悪化の一途で、コロナ禍以降、一番厳しい状況を迎えつつある。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	↘	→	→	→	↘	→	→	→	↘	・車載部品の需要は少しずつ回復してきている。 ・民生機器向け、産業機械向けの部品は、一段と需要が減少している。 ・量産品製造の性質上、価格転嫁が難しい。 ・若手社員の採用難が続いている。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	↗	→	↗	→	↗	→	↗	↗	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	↘	↘	↗	↘	↘	↘	→	→	↘	・特になし。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	セメント卸売業	↘	→	↗	→	↘	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・年間組合取り扱い袋セメント数量について、令和5年度は、組合開設以来、最低の数量となっている。 ・組合収支も最悪な結果となり、組合存続の正念場である。 ・年度内で2度の値上げを実施した影響もあり、廉価販売の私製袋に市場を奪われたと想定されるものの、一連の値上げも一段落したことから、6年度は5年度よりも取り扱い数量は上回ると予想している。
	非鉄金属製品卸売業	↘	↘	↗	↘	↘	↘		↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・各製造工程によって従事者が限られているため、3月はアルミ鋳造工場の火災や着色者のケガなどがあり、製造に支障が出ている。BCPなど、持続可能な環境づくりが求められる中、現実的にその課題解決が急務となっている。
小売業	鮮魚小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、横ばい傾向である。
	食肉小売業	↗	→	↗	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・価格転嫁の有無、小売・卸売等の事業形態、雇用人数などが理由で、売上や収益の差が事業所によって広がっている。 ・価格転嫁をしても、エネルギー、仕入、人件費等の上昇が大きく、収益性改善は厳しい状況である。
	野菜・果実小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・富山卸売市場全体の売上高は、数量減(91%)の単価高(108%)で、前年同月比99%となっている。 ・青果組合全体の売上高は、前年同月比99%となっている。
	家庭用電気機器小売業	↘	↘	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	→	→	↗	↘	→	↘		↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルの進展に伴うガソリン等の需要減に加えて、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。 ・物価高による個人消費の抑制から需要の回復感は弱く、ガソリン販売量はやや減少、灯油は朝夕の低温から増加の見込みである。 ・販売価格については、レギュラーガソリン、ハイオクガソリン、軽油それぞれ前年同月と比較するとそれぞれ6.8円高い状況が続いている。
	農機具小売業	↘	→	↘	↘	↘	↘		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年産の米の品質が低下し、農業者の収入が減少したことから、農業者の機械購入意欲が下がり、業界の景況は悪化している。
	ショッピングセンター	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・前年同月比で売上は104.7%、客数は102.7%となっている。
	ショッピングセンター	↗	→	↗	↘	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高により、販売価格が上昇している。 ・3月の売上の増加は、曜日のめぐり合わせや4月からの値上がり前の需要によるものが大きいと思われる。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・北陸応援割や春休みの影響で人出が増え、観光客などが飲食店に列を作る賑わいを見せている。 ・北陸新幹線敦賀開業や能登半島地震復興支援による消費マインドの向上を期待している。 ・能登半島地震で被災した店舗の復旧が進まず、閉店したままの店舗が数店ある。
	商店街	↘	→	↘	→	→	→		→	→	・3月は例年に比べて気温が低く、通行量が少なかったため、売上に影響している。
サービス業	クリーニング業	↗		→	→	↗	→		→	↗	・特になし。
	飲食業	↗		↗	→	↗	→		→	↗	・昼営業も夜営業も順調で、売上について前年同月比で15%増加している。
	建築設計業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・3月の自動車新車新規登録・届出台数は、大手車メーカーの不正による出荷停止により、前年同月比で3ヵ月連続で減少しているが、2月中旬より完成車の生産を再開しており、今後は生産再開車種が増えるため、3月の底打ち以降は上向くことが期待される。 ・受注残の解消後は、ウクライナ情勢、為替市場、物価高騰などの状況によっては、自動車の車両価格が更に値上がりすることとなり、自動車購買意欲が薄れ、新車販売台数の減少となることが予想される。 ・自動車整備事業者においては、自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えている。こうした課題に対応できない事業者は、自社の取扱い車種が加速度的に減少している。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	→		→	→	↘	→		→	→	・中小鉄骨加工業者は、少しずつ物件は増えているものの、鋼材や高力ボルトなどの値上がりが控えているため、ゼネコンとの難しい価格折衝をしていかなければならない。 ・首都圏や大都市物件が多い大手鉄骨加工業者は、4月より、物流の2024年問題の影響が経営課題となってくる。オントラック渡しでの受注を増やすことがこの問題の回避に繋がる。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・景況に変化はない。 ・国土交通省から新年度用公共工事労務単価が公表され、富山県の配管工労務単価は、1,100円のアップとなっている。 ・能登半島地震による石川県七尾市の水道断水解消復旧作業が、4月以降も継続予定である。
	電気工事業	→		↗	→	→	→		→	→	・公共工事は前年並み、民間工事の設備投資は増加、住宅着工件数は減少している。 ・以前より電材の供給不足は緩和しつつあるが、商品によっては納期遅れや未定もあり、工程に影響している。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・軽油価格が前年同月比で+3.3円前後となり、昨年11月から5ヵ月連続で前年同月を上回っており、経営を圧迫している。
	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・燃料価格について、前年同月比+4.8円/ℓだが、前月比では横ばいである。 ・荷動きは前年同月比94.7%となり、予想していた程伸びていない。 ・変わらず貸切備車の確保に苦労している。